

西部発展・貧困扶助工作座談会

田中 修

はじめに

李克強総理は8月19日、蘭州で西部発展・貧困扶助工作座談会を開催した。座談会には、甘肅省書記・省長、内モン自治区主席、四川省長、雲南省長、青海省長、楊晶、周小川が出席した。本稿では、座談会における李克強総理の発言を紹介する（新華網蘭州電2013年8月19日）。

経済を持続的に発展させ、民生を不断に改善し、社会の公正を促進することは、今期政府の主要任務・努力の方向である。このため、経済発展の動向とマクロ政策の方向をしっかりと把握しなければならない。

現在国際経済の回復は非常に困難であり、国内経済は成果を得ると同時に、長期に累積した矛盾が際立っている。わが国経済の発展はすでに転換期に入っており、成長の質・効率・持続可能性の向上に力を入れ、経済の発展と民生の改善を更に好く結びつけることにより、大衆が目に見え、理解でき、実際に恩恵が得られるようにする必要がある。

根本的に言えば、これにはやはり改革の最大のボーナスの還元に力を入れることに依拠し、市場・社会の活力を奮い立たせ、発展の内生的動力を増強することにより、経済成長の長期にわたる持続的で健全な発展を促進し、中国経済のグレードアップ版を作り上げなければならない。

経済の長期にわたる持続的で健全な発展を実現するには、経済を合理的区間内に運営することとマクロ経済政策の枠組みを総体としてよく考慮しなければならない。

安定成長・雇用促進の下限とインフレ防止の上限の合理的区間内では、経済発展方式の転換を主線とし、改革の堅塁攻略を主たる動力とし、経済構造の調整を注力点とすることを堅持しなければならない。

経済運営が下限に滑り落ち、あるいは上限に迫ったときには、現在を安定させ長期に資するという原則に基づき、改革という方法・構造調整という措置を用いることを堅持し、施策を統一的に企画し、正確に力を発揮することにより、経済の大きな波動を回避し平穏な運営を維持しなければならない。

わが国の経済構造の不合理的は、都市と農村、地域間の発展のアンバランスに際立って現れているが、発展の最も融通が利く余地は中西部にある。西部大開発は地域の協調的発展の総体構造において優先的に位置付けられ、経済の持続的で健全な発展を支える重要なパワーであるとともに、社会の公正を促進する必然的要求でもあり、差別化した経済政策を

実行しなければならない。

重点インフラ建設を更に多く西部に傾斜させ、鉄道・道路の骨格的なネットワークの完全な構築を加速し、重大水利プロジェクトの建設を推進する。産業の移転と特色・優位性のある産業の育成を積極的に誘導し、現行の優遇政策を引き続き実行する基礎の上に新たな措置を検討・制定しなければならない。労働集約型・環境にやさしい産業の移転を西部が受け容れることを支援し、水・光・風等の自然資源の開発利用及び優位性のあるエネルギー・鉱産資源を現地で加工・転化することを支援しなければならない。

ニュータイプの都市化促進と農業の現代化を有機的に結びつけ、相互に補完させる。科学技術・人材による支えを強化し、奨励メカニズムを整備し、人材が西部に留まることを奨励することにより、彼らの起業・イノベーションのパワーを更に好く発揮させなければならない。

西部開発にしても、貧困扶助の堅塁攻略にしても、いずれも改革の深化・開放の拡大、社会主義市場経済体制の整備に依拠しなければならない。貧困の減少は発展を量る重要な指標であり、小康社会を全面的に建設する重点・難点でもある。

全国の貧困人口の半分以上・広域にわたって集中する大部分の特別困窮地区は西部地域にある。思考・メカニズムを刷新し、貧困扶助の堅塁攻略戦に打ち勝ち、広域にわたって集中する特別困窮地区を主戦場となし、国家は資金と政策支援を提供しなければならない。

開発式貧困扶助を推進し造血機能を増強する基礎の上に、生態文明建設を重要な摺り所として、環境を確実にしっかりと保護し、生態移民、耕地の林への還元、特色・優位性のある産業の発展が結びついた新たな道を模索する。

地域の優位性を発揮させ、西に向けて開放を拡大し、交流・協力・発展の余地を開拓する。西部大開発においては、基本的な民生の保障に力を入れ、各民族・大衆の団結進歩・共同发展を促進し、共同富裕に向けて邁進しなければならない。

(8月21日記)